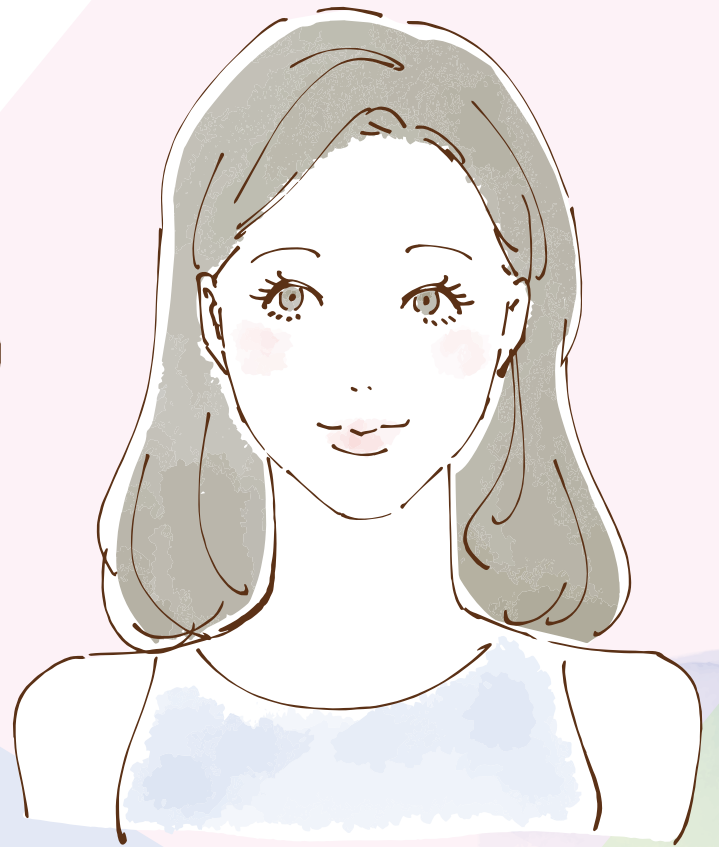
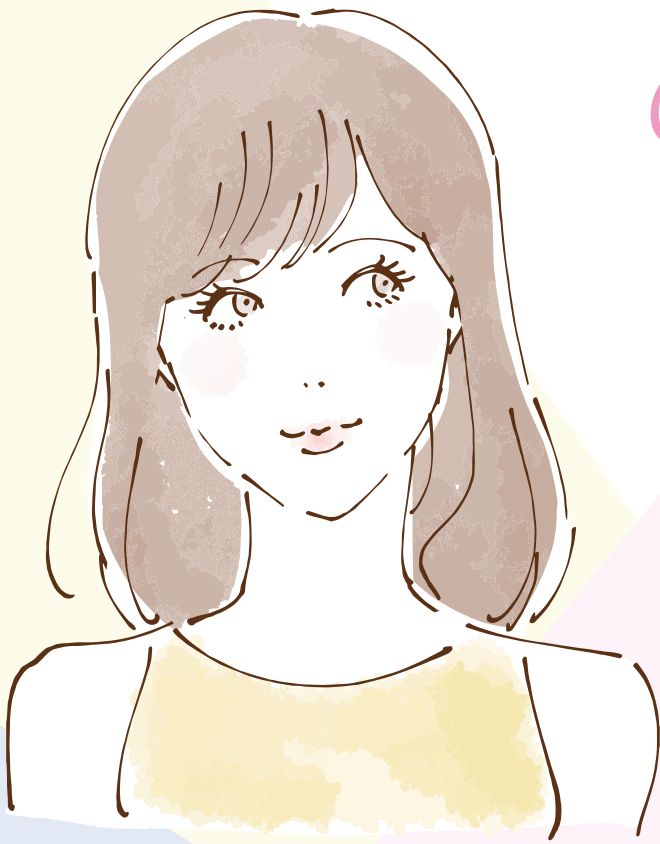


令和3年度浜松市UD・男女共同参画提案事業

# 今、輝く、地域の女性達

～女性リーダー育成のために～

*Woman's  
leader*



特定非営利活動法人 みらいネット浜松

## 地域社会の活力を高める女性の活躍

近年、わが国では「すべての女性が輝く社会」の実現を成長戦略の中核に捉え、集中的に施策を進めてきています。

しかしその実現に向けた様々な取り組みを展開する中で、女性の置かれている状況や女性の活躍に関する意識は、一様ではないと考えられます。

そこで女性の活躍を通じて、経済・政治・行政・子育て・地域活動などがどのように活力を高めていくか、女性活躍の現状や男女の仕事と暮らしについて調査することにより、今後の課題が見えてきます。

今回、浜松市UD・男女共同参画課の提案事業を受託し、女性リーダー育成のための冊子を作成することといたしました。冊子作成にあたり、女性リーダーとして地域で活躍している方々50人にアンケートを実施し、現在置かれている環境の中で皆さんが感じていることを答えていただきました。その他、「女性リーダー座談会」や「活躍する女性紹介」など、今後の活動の参考になるような情報を掲載しました。

女性が社会参加しやすい、すなわち女性にとって魅力のある地域は、地方創生と少子化対策の鍵となります。企業においては女性を育成し、管理職や役員への登用を着実に進めることで女性の活躍が期待できます。また、地域・企業・行政の連携で「女性リーダー」を育成し、活躍を貴重な財産として生かしていくことが大切です。

それにより女性たちは、能力を生かし、学習し知識を吸収し、意識を高め、責任感の強いリーダーの資質を備え、様々な分野で立場を確立していくことと思います。

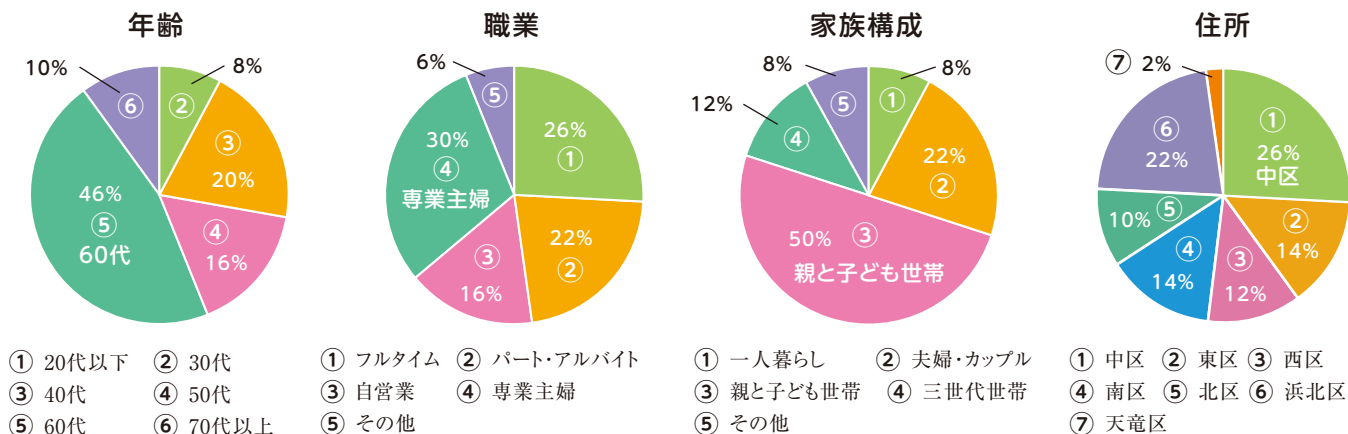
男女共同参画社会の実現により、女性リーダーの育成が進み、多くの女性役員が輩出され、地域経済の活性化につながることを願っています。

令和4年2月

目次	地域の女性活躍に関するアンケート	3
	地域で活躍する女性リーダー「座談会」	9
	女性リーダー団体紹介	14

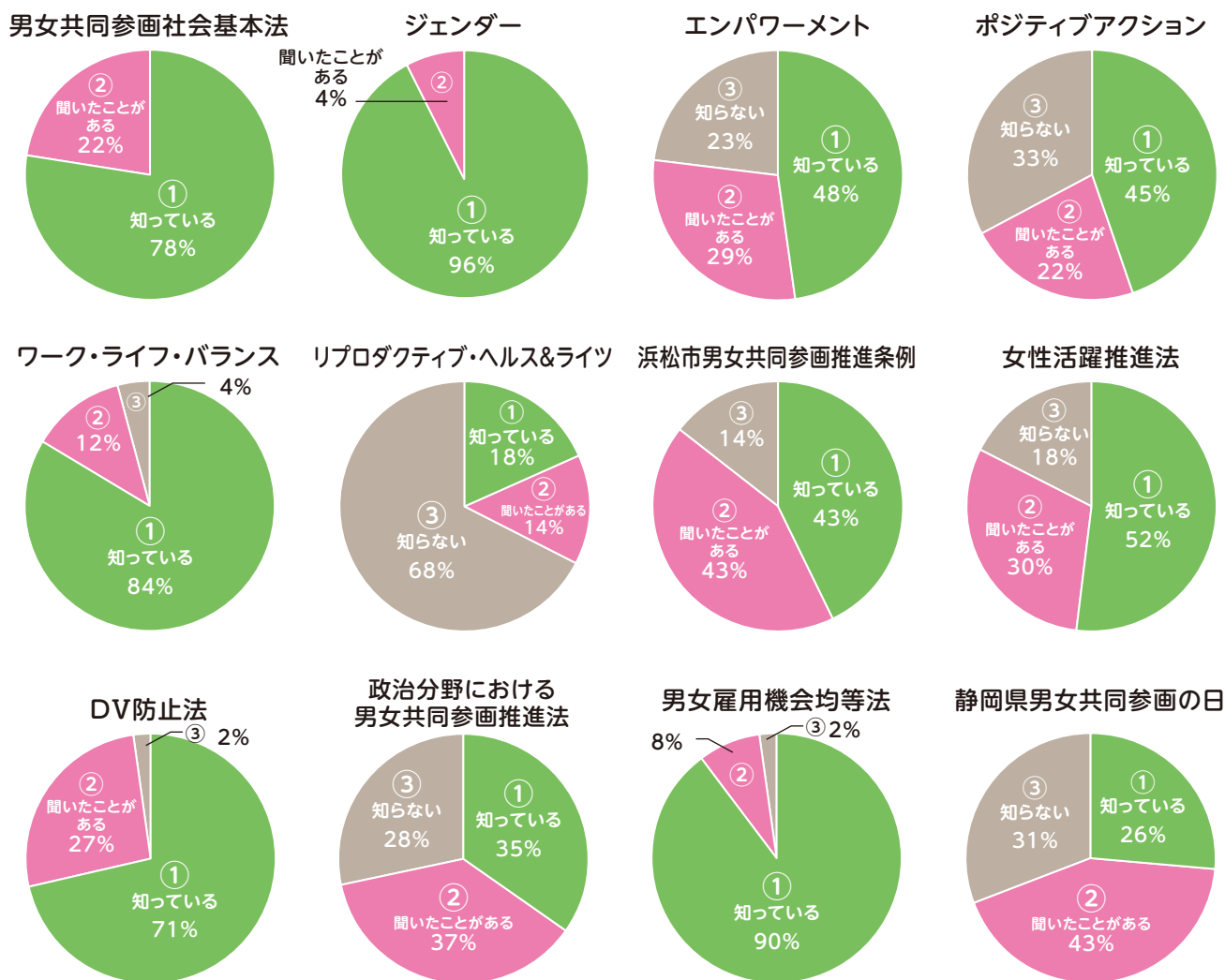
## ◎アンケートにお答えいただいた方の「年齢・職業・家族構成等」

調査対象：市内の女性リーダー50人、調査期間：令和3年9月1日～9月30日



## 問 1 あなたは次の言葉・単語を知っていますか？

- ① 知っている    ② 聞いたことがある    ③ 知らない

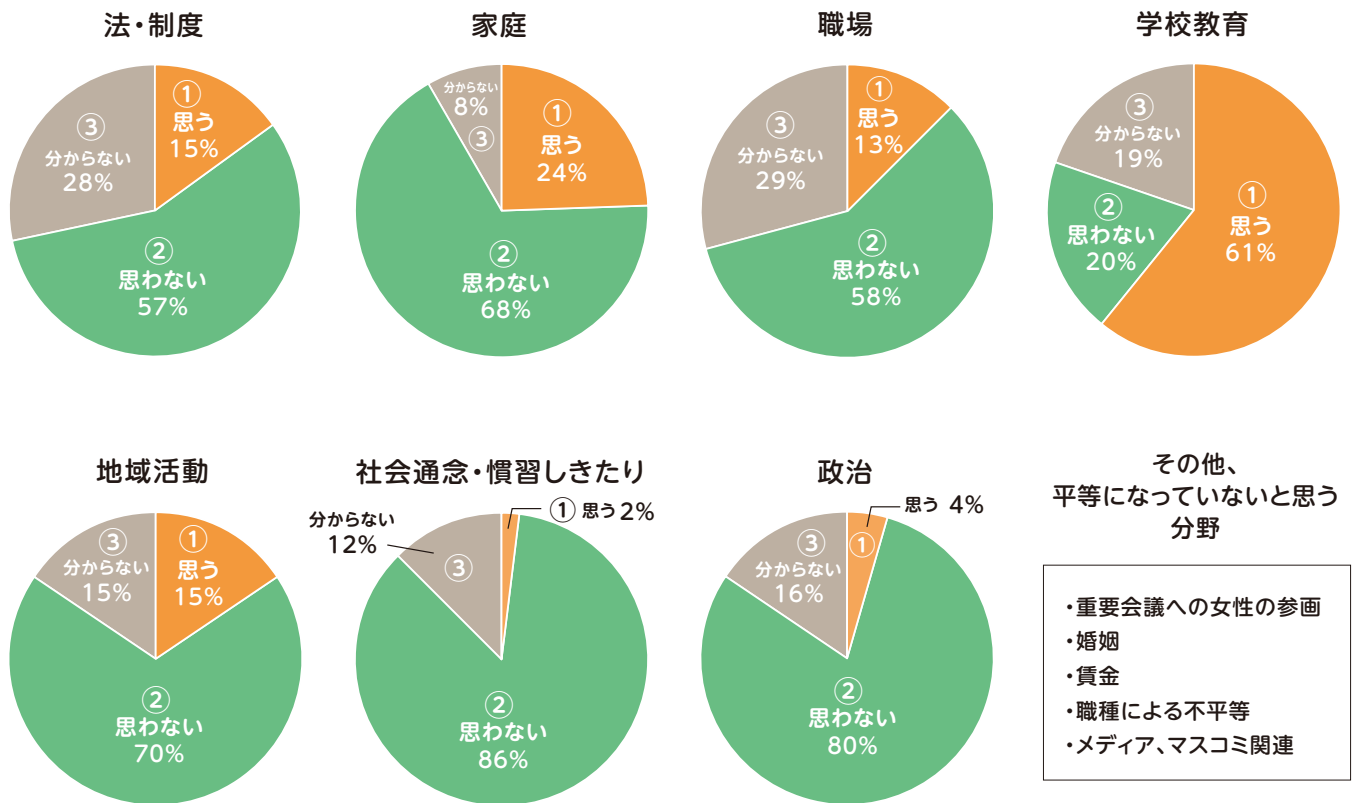


ジェンダーの言葉は96%が知っていると答え、静岡県民意識調査(2021,12)においても認知度が高く約8割が周知していた。オリンピック開催や、女性蔑視発言で人権意識が高まったことが背景にあり、浸透している。リプロダクティブ・ヘルス&ライツは、認知度が低い。

問 2

あなたを取り巻く社会環境の中で、次の分野は男女が平等だと思いますか？

- ① 思う
- ② 思わない
- ③ 分からない



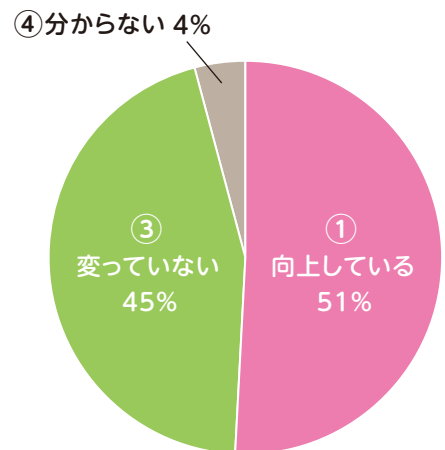
平等だと思うものの中で一番多いのは学校教育の61%であり、思わないは社会通念・しきたりである。教職員の男女平等が確立すれば、教育現場での次世代育成がしっかりできると考える。慣習は地域のみならず世代を超えて折に触れ話し合い、大きな岩を徐々に崩していきたい。

問 3

ここ10年、女性の地位は向上していると思いますか？

- ① 向上している
- ② 低下している
- ③ 変わらない
- ④ 分からない

向上していると思う人と、変わっていないと思う人は、均衡している。半面、低下していると感じている人は、皆無であった。男女共同参画の分野は直接目に見えにくい、目標に向かって常に進めていく必要があり、誰もが女性の地位向上を感じる時代でありたい。

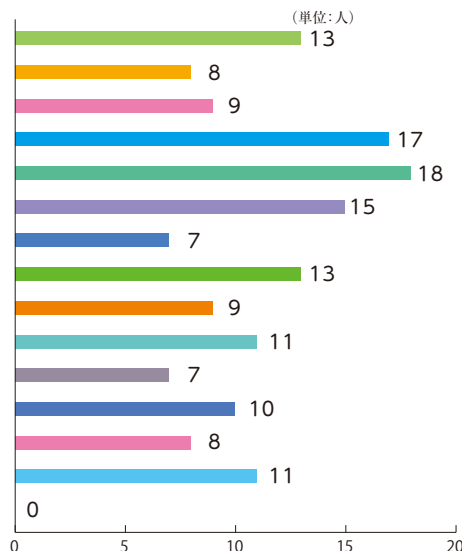


## 問 4

## 男女共同参画の学習で、あなたが学んでみたい講座は何ですか？

(複数回答)

- ① 基本的な男女共同参画
- ② 女性問題や女性史
- ③ 政治・経済の仕組み
- ④ 地球温暖化やゴミなど環境問題
- ⑤ 国際的問題や異文化理解
- ⑥ 活躍する女性の体験談、交流
- ⑦ 男性の考えを学ぶ講座
- ⑧ 女性の体・心の健康
- ⑨ 男女が共に意見交換できる場
- ⑩ ジェンダーにこだわらない生き方
- ⑪ メディアリテラシー
- ⑫ 女性と防災
- ⑬ ワーク・ライフ・バランス
- ⑭ 男性の家事、育児
- ⑮ その他



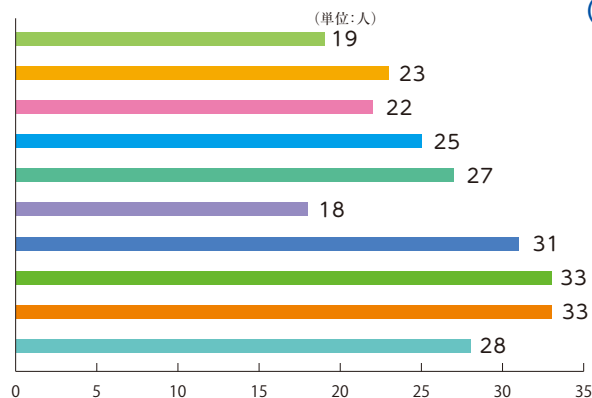
国際的な問題や異文化理解が多く、次に地球温暖化やゴミなどの環境問題が続いた。また、活躍する女性の体験談や交流など、他者から学びたい要望があった。原点に戻り、基本的な男女共同参画を学びたい人がいたことは、今後に期待できる喜ばしいことである。

## 問 5

## 家事の中で男性にも分担してほしいと思うものは何ですか？

(複数回答)

- ① 洗濯
- ② ゴミ出し
- ③ 料理
- ④ 食後の後片付け
- ⑤ 掃除
- ⑥ 買い物
- ⑦ 子育て
- ⑧ 老親介護
- ⑨ 近所づきあい
- ⑩ 親戚づきあい

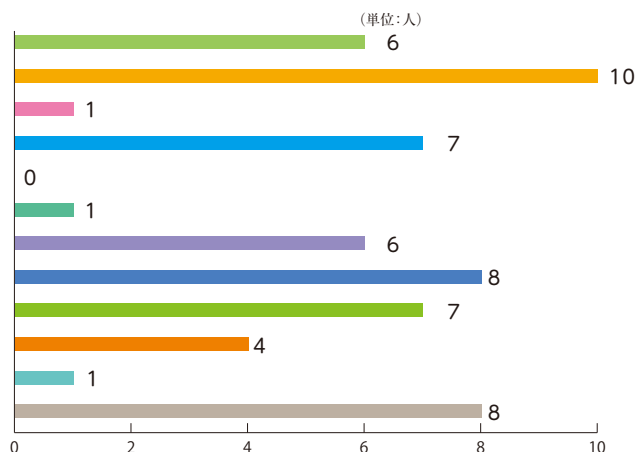


老親介護や、近所づきあい、子育てなどが多く、それらから女性たちが大変な思いをしている現状が見える。男女共お互いの考え方をよく話し合い、できることを確認し合い、負担が一方にだけかかることなく分担し合う家庭生活でありたい。

## 問 6

## 現在あなたが困っていることは何ですか？ (複数回答)

- ① 居住地域の生活環境
- ② 子どもの育児・教育
- ③ 嫁姑問題
- ④ 家族の病気介護
- ⑤ 家族の単身赴任
- ⑥ 夫婦問題
- ⑦ 健康
- ⑧ 老後
- ⑨ 自分の生き方
- ⑩ 仕事上の悩み
- ⑪ 近隣、職場、友人など人間関係
- ⑫ その他



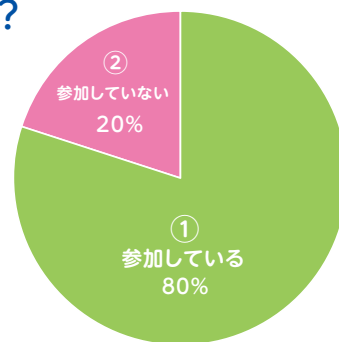
子どもの育児や教育についての悩みが多く、老後問題や家族の病気介護がそれに続く。自分の生き方について考えている人も多く、急激な社会変化の中で地域や家族のことを考えながら、自分の在り方を模索している。より自分らしい生き方の選択を、期待する。

## 問 7

## あなたは現在、地域活動に参加していますか？

- ① 参加している
- ② 参加していない

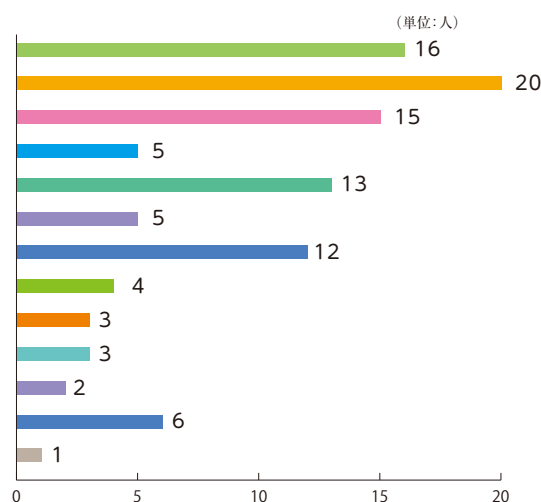
参加している人が8割である。地域での女性の役割は大変重要で、女性の視点をさまざまな場面で生かして行ってほしい。地域差もあることから現状をよく把握し、地域ごとの課題をしっかりと解決できる力を養いたい。「地域の活性化は女性の力で」を合言葉にしよう。



## 問 8

## 問7で「参加している」と答えた方は、現在どんな活動に参加していますか？（複数回答）

- ① 福祉ボランティア活動
- ② 自治会・町内会・女性部会などの地域団体活動
- ③ PTA・子ども会・青少年育成活動
- ④ シニアクラブ・高齢者団体の活動
- ⑤ 女性団体の活動
- ⑥ 食育・消費者団体などの、食や消費に関連する活動
- ⑦ 趣味・スポーツ・文化などのサークル活動
- ⑧ 環境・美化・自然保護活動
- ⑨ 保健・衛生・医療関連の活動
- ⑩ 国際交流活動
- ⑪ 政治・労働組合活動
- ⑫ 防災
- ⑬ その他

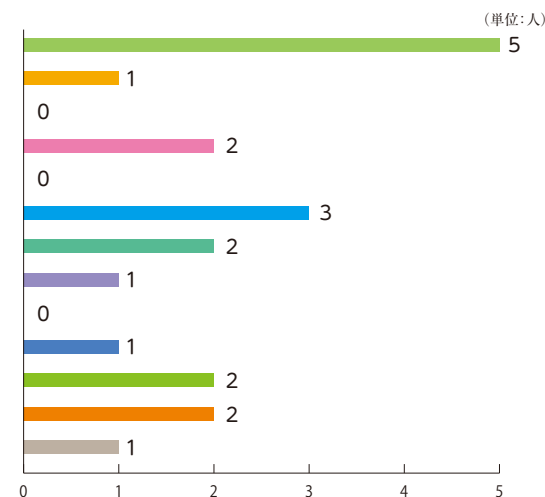


身近な自治会・町内会・女性部会などで活動している人が多く、次に続くのは福祉ボランティア活動である。男性は職業経験を通して地域活動に携わることが多いが、地域活動は男女で作り上げていくことを基本とし、女性の特質や視点を生かしていきたい。

## 問 9

## 問7で「参加していない」と答えた方は、どんな理由で活動に参加していませんか？（複数回答）

- ① 仕事が忙しく、時間が無い。
- ② 家事・育児で忙しく、時間的余裕が無い。
- ③ 親・病人・子どもなどの世話を頼むところが無い。
- ④ 自分の健康や体力に自信がない。
- ⑤ 家族の理解が得られない。
- ⑥ 自分がしたい活動のグループや団体を知らない。
- ⑦ 身近な所に活動する場所が無い。
- ⑧ 経済的な余裕が無い。
- ⑨ 職場の上司や同僚の理解が得られない。
- ⑩ 活動中での人間関係が煩わしい。
- ⑪ 一緒に参加する仲間がいない。
- ⑫ 地域に馴染みがない。
- ⑬ その他

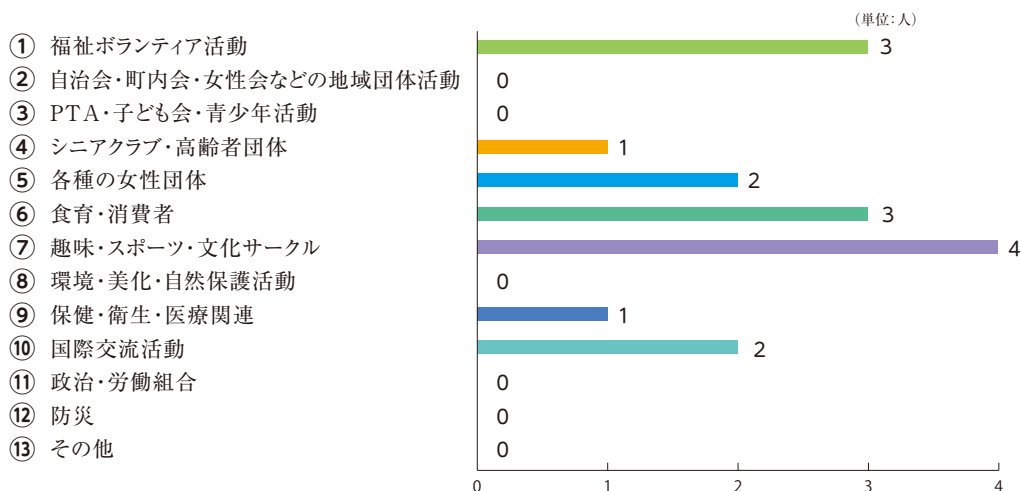


仕事で忙しく時間がない人が多く、ワーク・ライフ・バランスの考え方の浸透を、さらに図りたい。自分のしたい活動や団体を知らないという人もいることから、情報公開や交流の場を作り、知る機会を増やしていく必要があると考える。



## 問 10

問7で「参加していない」と答えた方、今後地域活動をするとしたらどんな活動に参加してみたいですか？（複数回答）



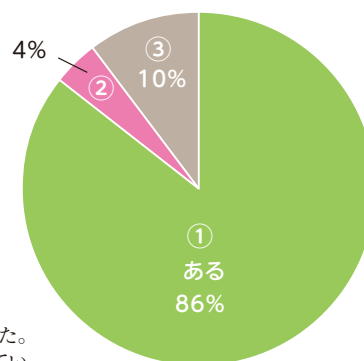
趣味・スポーツ・文化活動への参加意欲が多く、自分の生き方や生きがいを見つけて楽しみたいと考えていると推察する。食育・消費者関連と福祉ボランティア活動が、次に続く。

## 問 11

地域のしきたり・慣例や慣習で、現在も続いていると感じるものはありますか？

- ① ある
- ② ない
- ③ 分からない

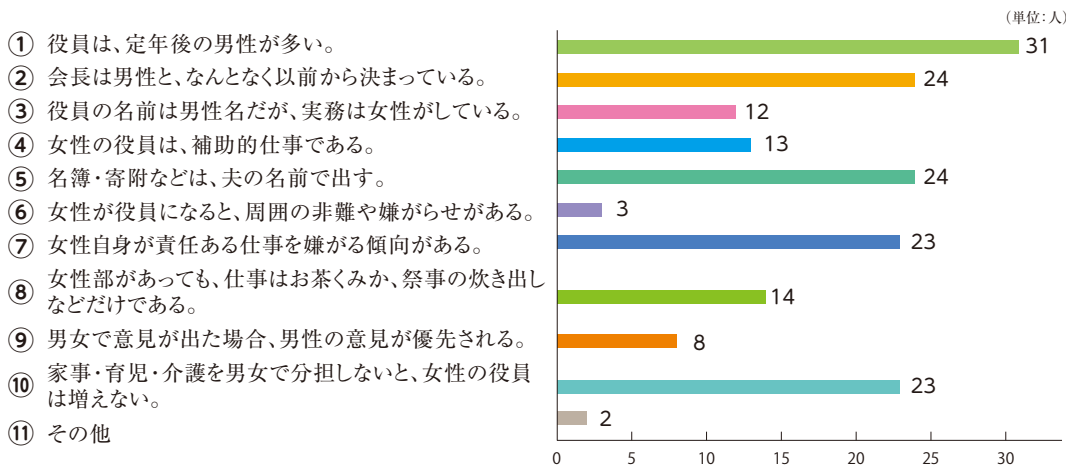
慣例・慣習があると感じている人が大変多く、ないと感じている人は僅かであった。地域のしきたりの中で、続けていかなければならないことと、時代に即して変えていかなければいけないことを精査していくことが、重要と思われる。



## 問 12

問11で「ある」と答えた方は、どんなことですか？（複数回答）

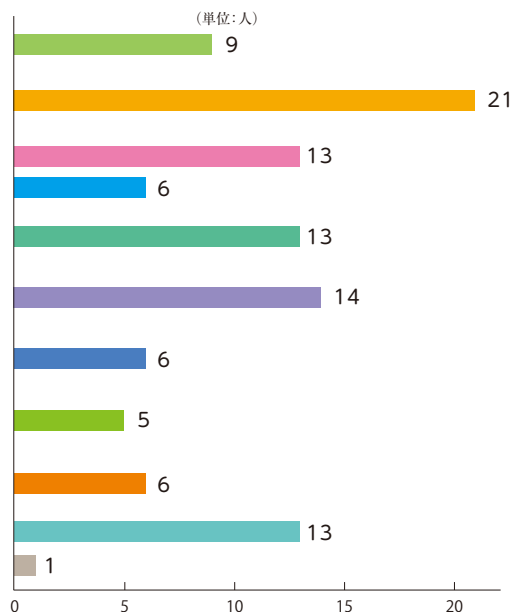
※自治会・町内会・女性部・地区社協などにおいて



自治会役員は定年後の男性がなりやすく、会長は男性と決まっていることが慣習になっていると感じていることがわかる。名簿は夫の名前でということから、家長は男性という意識がまだまだあると考えられる。自治会などにおいても、女性は責任ある仕事を嫌がらずに役員を務めてほしい。

### 問 13 地域の慣習において感じていることはなんですか？（複数回答）

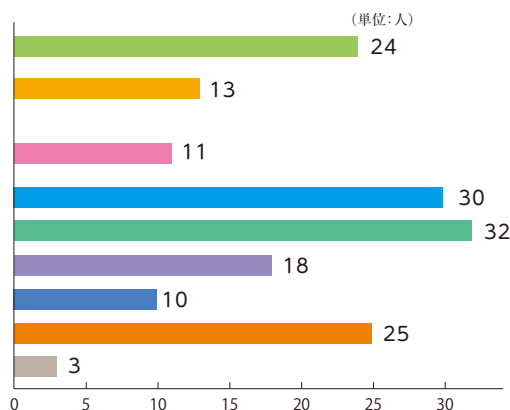
- ① 女性が何か目立つことをすると、非難されたり噂が立ったりする。
- ② 既婚女性は、「〇〇さんの奥さん」「〇〇家の嫁さん」と呼ばれ、個人でなく「家」の立場で見られる。
- ③ 男の子は、その家の跡取りとして重んじられる。
- ④ 男女で意見が出た場合、男性の意見が優先される。
- ⑤ 葬祭では、受付が男性、お茶接待が女性と、役割分担がされている。
- ⑥ 全体のまとめ役は男性、雑用は女性と、殆どの場面で暗に決められている。
- ⑦ 文化関連で、神事や伝統民俗芸能に女性の参加を喜ばない傾向がある。
- ⑧ 地域活動をする女性を、「仕事をせず遊んでいる」と見る向きがある。
- ⑨ 「女のくせに」「男を差し置いて」「男の顔に泥を塗った」「男勝りで」などの考えがまだある。
- ⑩ 男女の名前がある場合、男性が先に来る。
- ⑪ その他



家を中心に考える風潮が依然としてあり、それに悩む女性が多い。世代によって考え方の相違はあるが、基本的な男女共同参画意識の啓発を積極的に進めないと変わっていかない。出前講座的なことを多く計画し、やさしい言葉で内容を説明する機会を作っていくたい。

### 問 14 女性の活躍を進めるには、どうしたらいいと考えますか？（複数回答）

- ① 男女共同参画の知識を、地域に広める。
- ② 色々な場面で、男女共同参画を学ぶ講座・ワークショップを開催する。
- ③ しきたりや慣習を地域の高齢者と交流し、時代背景に沿って検討する。
- ④ 女性自身の意識と質の向上が必要である。
- ⑤ 女性が動きやすい家族の協力が大切である。
- ⑥ 役員選出の場や企画運営に女性の参画を促す。
- ⑦ 行政など主催の人材育成学習機会を活用する。
- ⑧ 学校や幼稚園・保育園などで小さい頃から教育する。
- ⑨ その他



家族の協力が不可欠と感じている人が多く、続いて女性自身の意識と質の向上である。幼いころからの教育が必要であるとの考えも多く、男女共同参画の知識を地域や学校に広めていきたい。未来の住みやすい社会を、女性が主体で創り上げていくよう努力する。

女性を取り巻く環境は、家事・育児・介護など厳しい現実があり、社会通念や慣習における女性の立場もまだ改善すべき点が多々あります。性別役割分業意識が地域活動や家庭生活など身近なところに残っている中で、女性リーダーが活躍している状況を垣間見ることが出来ました。

今後に生かす問題点を箇条書きし、女性の活躍につなげたいと思います。

- ◆ 地方政治そのものを活性化させていく過程で、女性の立候補者を増やす。
- ◆ 女性の採用・登用などに関する総合的な取り組みを計画的に進めていく。
- ◆ 女性の希望する就業が実現できるよう、男性の参画意識を高める。
- ◆ 家事・育児・介護を女性だけの負担にせず、家庭・職場・社会が支える。
- ◆ 地域のつながりを生かしつつ、女性リーダーの活躍を進める。



## 交流でつかむ手応え

各地域で活躍する女性リーダーたちは、多様な生き方の中で、リーダーの資質を生かしながらどう自分らしさを発揮しているか、それぞれの分野での問題点を取り上げて、今後のリーダーの在り方や女性の活躍促進について話し合いをしました。



### 発言者



**太田 香保里**  
「ミセスジャパン  
2020静岡大会」  
エリアディレクター



**國井 良子**  
県広報誌  
「ねっとわあく」  
編集長



**榊原 真理**  
ふれあいサポートネット  
「ふわっと」  
理事長



**藤林 木綿子**  
浜松いわた信用金庫  
人事部ダイバーシティ推進課  
次長



**森脇 洋子**  
東上池川自治会  
会長



**河原 みち代**  
NPO 法人みらいネット浜松  
理事長  
(敬称略、五十音順)

### 司会進行

**河原:** 本日はお忙しい中ご参加下さり、ありがとうございます。

今年度の浜松市男女共同参画提案事業委託を受けて、女性の活躍をテーマにした取り組みを行います。その一つとして女性リーダー育成に役立つよう、冊子を作成することになりました。地域で活躍する5人の女性リーダーにお話をいただき、今後どうしたら女性リーダーが増えるのか、また資質が高まっていくかなど、お話をお伺いします。

**河原:** 初めに、自己紹介、所属団体の紹介、役職、リーダーになった経緯についてお話をください。

**太田:** 本職は、半田山でリンパマッサージサロンを経営しています。他に女性の消防団活動や献血普及活動を実践する中で、思いを多くの方に知っていただくため「ミセスジャパン静岡大会」に挑戦しました。2019年に県・日本代表のタイトルを獲得し、2020年三ヶ日町の浜名湖レイクサイドプラザにて「ミセスジャパン2020静岡大会」のエリアディレクターとして、大会を開催しました。リーダーとしては駆け出しです。

**國井:** 県の男女共同参画情報誌「ねっとわあく」の編集長をして、6年目になります。以前は子育て情報誌「浜松こども情報誌」の編集、ライターをしていました。また、浜松のパートナーシップ宣誓第1号です。10月にパー

トナーが、「オベなしで！戸籍上も『俺』になりたい裁判」の申し立てを浜松家庭裁判所に起こしサポート、現在性的マイノリティの方への支援をしています。

**榊原:** ふれあいサポートネット「ふわっと」を15年ほど前に立ち上げ、小・中学生が赤ちゃんと触れ合う体験活動を支援しています。初めて参加した中学生に、「皆さん親に愛されていると思いますか？」と質問をしたら誰も手を挙げませんでした。赤ちゃん親子と触れ合った後の感想文に、親への感謝の気持ちや自分の命を肯定する文が書いてあり、たった1時間で子どもたちを満面の笑顔にしてしまう赤ちゃんの力に感動しました。それが本当に嬉しくて活動を続けています。昨年からコロナで直接触れ合うことができないので、赤ちゃん人形を利用している状況です。

**藤林:** 浜松いわた信用金庫の人事部に所属し、6月に設置されたダイバーシティ推進課に7月配属となり、女性活躍の仕事に携わっています。女性管理職育成講座の開催や、ダイバーシティ関連のワーキンググループ立ち上げなどの活動です。今、勤続33年目で、以前は営業店の仕事をしていました。子ども2人を育て、上司や部下に支えられながら昇進試験を受け、自然の流れの中で今リーダーという立場に立つことができました。

**森脇:**私は、4人の子育てをしながら共稼ぎで35年間NTTに勤め、退職時は管理職でした。退職後「いのちの電話」の相談員になり、在職中にカウンセリングの勉強もしたので、15年続けました。地域の民生児童委員も受け、いのちの電話と並行して13年、民生児童委員はやる気になればやることはいっぱいあり、活動すればするほど大変でした。退任後自治会副会長を3年やり、皆さんに推されて自治会長になり、現在は従来のやり方を改革しながら進めています。何事も一生懸命にしていたら、いつの間にかリーダーとして活動している感じます。

**河原:**続いてリーダーとして困ったことや思うことについてお話し下さい。

**森脇:**ずっとリーダーをやってきたので、困った事案は自分で解決しなければならない、何があっても自分で決断するという事、決断するという事は責任も問われるし、自分の覚悟も必要だと思っています。

自治会では、困った事があった場合は副会長と役員に相談し、皆さんの意見を聞いてまとめ対応しています。「自分一人ではやらない」ということで、これは責任を回避するという事ではなく最後は私が責任を取るという覚悟で、皆さんと相談しながらやっております。

**藤林:**一番大事にしている事は、仕事はどんなに大変でも何とかありますが、気持ちの面、即ちメンタル面でいかにやる気を継続していくかという事です。

現在人事に携わり、私自身いろいろな勉強になっています。どんなに組織が大きくなっても、大事なのは人間に関わる部分で、表面的ではなく気持ちを大事にしていきたいと思っています。また自分一人では仕事は出来ないの、周りの人を巻き込んで自分の弱いところも見せて、皆と一緒に作り上げていくようにしています。

**榊原:**ふれあいサポートネット「ふわっと」はボランティア団体で、やる気のある30人ほどが集まって活動しています。20年前位からこの活動を始め、「ふわっと」を立ち上げて15年ほど経ちます。その当時は自分も若かったし、メンバーも若かったです。20年経ち孫の世話や親の介護、自身の健康問題等、メンバーの状況も変わってきましたし、若い人は子どもが大学に行くので仕事をしなければいけないと、ボランティアをする事が次

第に難しくなっています。この活動は素晴らしいと賛同してくれる人は大勢いますが、後継者を育てていく事に繋がっていないのが、一番困っている事です。

**國井:**「ねっとわあく」の編集長として困った事は、毎年1~2回発行しますが、編集員が年毎の公募で変わることです。毎年新しいメンバーが一から始めるので、内容の質を落とさず、県民に男女共同参画の啓発をすることがなかなか難しいです。毎回変わる編集員と男女共同参画の勉強をしながら仕事をしていますが、何年か継続して編集するメンバーの定着ができるといいなと思っています。

**太田:**ミセスジャパンという団体は、一般的には美人コンテストというイメージがありますが、女性の活躍を応援したり、地域に根差したオピニオンリーダーを育成することが目的のページェントです。

タイトルを獲得出来るよう切磋琢磨していますが、人の触れ合いの中でコミュニケーション能力を学び、地域に社会貢献のできるリーダーを育成するという団体です。出場したOG達が次の大会を運営する、ミセスによるミセスのための大会です。スタートから終わりまで、成長や学びがあります。いろいろな意見を集約するリーダーとしての資質も求められますが、同時に自分らしく輝く事が人生の中で必要です。個性を尊重し、思いを受け取られる心の広さも必要です。失敗する中で学びを得ることもあり、失敗ではなく「経験」というフォローも必要で、「それがあって良かったね」「話してくれてありがとう」という形で、成長につなげていくことを大切にしております。



**河原:**女性リーダーの資質として何が必要だと思いますか。

**太田:**団体はミセスのコミュニティで、既婚者や子育て中のミセスが主に在籍しています。私はファミリー(家族)と認識し、リーダーを母親と位置づけ、出場者は娘と思って接しています。例えば、子育て中に子どもがわがままを言ったり、理由が分からず泣いたりした時、母親は感情的にならず優しく「そのままでもいいんだよ」「素晴らしい存在なんだよ」と伝えると、子どもはのびのび育ちます。自分の軸をしっかり持ってバランスよく家族全体を見渡せる太陽のような存在のミセスは、リーダーの資質と同じではないかと考えます。

リーダーは指示を出したり役割を振り分けたりという大きな仕事があるので、行動力と説得力のあることが必要で、自分の姿勢と行動が正しいかどうか常に考えます。リーダーだから偉いという事ではなく、「みんなと一緒に活動させてくれてありがとう」という感謝の気持ちで、常に活動をしています。

**國井:**常に大事にしている事は、「前に出る、自分の意見をはっきり表明すること」だと考えています。編集長としても、最近は強めのメッセージを発信しています。昨年パートナーシップの第1号として宣誓をし、2組のカップルが市役所でマスコミの対応をした時のことです。その後ろにはレズビアン・ゲイ等マスコミに顔を出すことができないカップル、家族にまだカミングアウトできず表に出られないカップルが大勢いました。世間では性的少数者に対する差別や偏見が多くあり、今回のパートナーの申し立てでもそうですが、マスコミに取り上げられると、ネットには批判や反発、中傷の書き込みがすごくあります。でもそんなことに負けて引込んでいたのでは、世の中変わっていきません。私には表に出て多少叩かれても頑張れる仲間があり、多くの人が前に出ても大丈夫だと感じてほしいと思って活動を続けています。

全国で同性婚を認めてもらう裁判が、起こっています。Tシャツなどで自分のメッセージを発信していこうと常々思い、今日も着てきました。差別などに負けることなく、前に立って進んでいく資質がリーダーには必要だと思います。

**榊原:**私がリーダーとして資質があるかどうかというと、少々どうかناと思っています。

私の本職は大工です。子育てとかけ離れた仕事ですが、私の周りには、保育士・助産師・幼稚園や学校の先生だった方などがいます。私だけ専門知識を持っていないのですが、そんな何も知らない私がリーダーにいる事で、かえって皆の意見を素直に聞けるというか、「そうなんだね」と考えがまとまります。もし私がいろいろな事を知っていたら、「それは、そうじゃないよ」とか言ってしまうのではないかと感じています。

年間を通して学校に出掛ける機会があります。男女共同参画やLGBTの問題もお話しますが、子どもたちは本当に素直で柔軟に受け入れてくれます。私自身、子どもたちからあんな大人になりたいと思われるよう、魅力的な人間になりたいと思っています。

**藤林:**女性リーダーを増やすには、同僚(男女を問わず)の理解が必要です。出産・家事育児・介護など、色々な状況で仕事を休まないといけないことがあります。その時に同僚や家族の理解、そして職場環境の整備が必要だと考え、日々取り組んでいます。リーダーの資質として必要で大切なことは、本人の自覚・努力・学びです。

独身・既婚は関係なく、部下や周りがどうしたら働きやすいか、誰もが能力の出せる職場になるよう努力をする上司になりたいと思います。働き方は多様になってきていますが、それに対応できる上司・リーダーでありたいと思います。

**森脇:**中区の女性自治会長は、138人中2人です。女性の自治会長は減少傾向(編集部注:令和元年1.36% 令和2年0.94%)にあり、現在非常に少ないので、多くなってほしいです。それは、1人でやるより2人のほうがやりやすいからです。企業の管理職の時、女性は掛川以西で1人だったので、何を言っても意見が通りにくかったです。その経験からも、女性のリーダーはこれからもっと増えてほしいと思います。企業は教育して増やしていますが、自治会長は各々の町内で決めるので、どうやって増やしたらよいか名案が見つかりません。

私が会長としてまずしたことは、女性の副会長を増やしたことです。女性の会長がいることで、副会長やほかの理事が発言しやすくなったようです。男性中心の会合でしたが、今は女性もどんどん発言します。私自身もいろいろな意見が聞けて活動しやすくなり、皆さんも会合に出るのが楽しみだと言い、嬉しく思っています。資質として何が必要かということですが、先ほど榊原さんも「違う意見を聞く」とおっしゃいましたが、「傾



聴]は何よりも大事、他人の意見を聞くことが重要だと思います。退職して「いのちの電話」のボランティアに関わったことが、自治会長として他人の意見を傾聴することに役立ちました。リーダーの資質としては、他人を受け入れる広い心が大切と思っています。



**河原:**「女性リーダーへ一言」を、皆さんにお願いします。

**森脇:**私も「みらいネット浜松」の理事をしていますが、本日、皆さんが出席し発言して下さるととても嬉しいです。ありがとうございます。

自治会でも皆に対して「助かるよ」「あなたが居てくれてありがとう」と、「ありがとう」の言葉を常々言っています。

**藤林:**今リーダーの人も、これからリーダーになっていく人にも当てはまると思いますが、女性が生き生きと活躍するのは、何も管理職になる事だけではないと思います。家庭環境や考え方もそれぞれ違うので、その人に合った生き方が楽しいと思えば、それが一番だと思います。リーダーの形はさまざまであり自分に合った活躍の仕方を見つけてくれれば良いと、いろいろな人に言っていきたいと思っています。

**榊原:**皆さんの話を聞いて、本当に凄いなって思います。何で自分だけこんなに頑張っているのかなと思う時もありますが、皆さんそれぞれの立場での活躍の様子を聞いて、とても元気になりました。ありがとうございます。

最近、学校に行って感じる事ですが、コロナ禍で修学旅行にも行けない、運動会が思うようにできないことなど、生徒たちは元気が無いと思っていました。でもしっかり現状を受け止めて、前に進もうとしている姿がと

ても印象的でした。子どもたちがいろいろな経験を通して成功体験を積み重ねて行けば、将来リーダーになってくれるのではと感じています。皆さんも若者を育ててくれたら嬉しいです。

**國井:**先程、森脇さんもおっしゃいましたが、私も「ありがとう」という言葉が好きで、「すみません」よりも「ありがとう」を常に発しています。相手がそれを聞いて自分を認めてもらったと感じる事もそうですが、自分が発した言葉で、相手が「自分も行動して行こう」という気持ちになったらいいので、言葉掛けは常に意識しています。

ネット上で「おにぎりアクション(2021.10.5~11.5)」という、いろいろな企業がおにぎりの写真をネットに投稿することで、アフリカの子供たちに給食5食分を寄付するというキャンペーンが行われていました。私も参加しましたが、自分が発信した情報で周りが動いてくれる事が非常に嬉しく、周りに感謝することが大事だと感じています。

**太田:**私も「ありがとう」の言葉は毎日使い、何をするときにも「ありがとう」から始めています。「奥さん」という言葉は、女性が奥に居るというイメージが強いので、この大会に挑戦して目立つのはよくないかもしれない、家の中で静かにしていることが母親としてのあるべき姿かという葛藤を乗り越えて、挑戦しています。自分の可能性を信じて、自分らしく輝く事で家庭が明るくなり、地域が活性化し、社会貢献ができ、社会が明るくなる、皆が幸せになる、その最小単位が家庭であると信じ、そこに自分の仕事があると思っています。

女性リーダーの皆様は、一つ一つの経験があるからこそ他人の気持ちが分かるようになる、悩んでいる方に寄り添える力になります。その姿勢を常に持ち感謝の気持ちで進み、明るい未来を創っていただきたいと思っています。

**河原:**行政や関連機関への今後の提言・要望について伺います。男女共同参画社会の実現のため、皆さんで協力し意見を出し合いましょう。

**太田:**今日は参加して貴重な話を聞かせて頂き、こんなに素敵なお話が浜松にいらっしゃるのだと、本当に嬉しい気持ちです。「みらいネット浜松」が、例年のようにシンポジウムを開催する事も素晴らしいですが、コロナ禍で集客が大変な状況です。例えば、新聞の一角にテーマを決めて多くの人に渡していくバトンリレーのような形で、いろいろな団体がバトンを繋ぎ発信できれば良いと思います。他にはオンラインで誰でも参加できる場があれば、もっとたくさんの方々に素晴らしい活動の内容や思いを伝えられるのではないかと考えます。

**國井:**私の活動・所属の周りには、性的少数者に属する子どもたちがいます。「浜松トランスジェンダー研究会」という、支援団体に所属しています。メンバーの医師・弁護士・教師など支援を表明している方々と一緒に話をし、その中に子どもたちも少し参加してくれています。学校の制服・校則の問題で子どもたちがずっと苦しんでいて、制服で学校に行けなかったり、校則で学校生活が伸び伸びと過ごせなかったりする子どもたちが沢山います。行政が仕組みのなかで、子どもたちの生きやすい社会を作ってほしいと思います。周りにいる大人達の理解と支援も、必要になってきます。今ある制度を柔軟にしたり変えていく事を、もっと積極的にやってほしいと感じています。

**榊原:**「中学校に赤ちゃん親子が来る」の活動は平日で、ほとんどお母さんと赤ちゃんが来るのですが、企業や役所(公務員)の方が仕事の時間に社会貢献として自分の子どもさんを連れて来るとか・・・そんな事も素敵だと思っています。今年はコロナ禍で赤ちゃんを連れて来られないので、娘と娘の夫に協力してもらい一組で実践しています。「パパ・ママ・赤ちゃん」の話を生徒に聞かせ、ママだけの話を聞くだけでなく、パパが「子どもを産んでくれて本当に嬉しかった、ありがとう」とママに言う場面は、とても必要な事だと思います。いろいろなことを子どもたちが体験から受け入れると、次の世代は変わっていきます。多様性について義務教育の時に学ぶのは、今とても必要な事であると思います。

**藤林:**今お話にあったようなダイバーシティ=多様性についての受け入れは、東京などに比べてまだまだ進んでいません。障害者とかLGBTの問題とか、受け入れるのはなかなか難しい状況であると思います。

当金庫のダイバーシティ推進課はできたばかりですが、まだ「ダイバーって何」みたいな感じで茶化され、言葉も浸透していない現状です。ネットなどの発信を、行政がLINE・インスタグラム・Tik Tokなど使って、若者向けにもっとどんどん発信する形があったらいいと思います。携帯は多くの人を持っているので、その媒体が一番浸透するのではないのでしょうか。

また、男性の育児休業を進めていくと、女性の負担が減ります。家庭に帰って女性が家事をするのが当たり前という中で、自分も30年間働いてきました。男性の意識改革についても、積極的に発信していただきたいと思っています。

**森脇:**私は4人の子育てが終わり孫も8人いますが、子どもたちは自分達で生活していけば良いと思っています。そして私達は子どもに迷惑をかけないよう、夫と2人でしっかり生活していきますよ、という日常です。我が家の朝ごはんは夫の仕事、夫は60歳の定年後、主夫講座に通いました。当時、私は現役で仕事一筋でしたので、家の事は夫に任せました。

さて、今後への提言、行政や関連機関への要望ですが、弱者にやさしく、仕事面では改革と効率化を考えていただきたいです。役所や企業の取り組み方によって、女性も男性も働きやすい社会になっていくのかなと思います。

**河原:**貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。女性リーダーの活躍により、浜松市の男女共同参画がますます推進され、住みやすい社会が実現するよう念じ、今日の懇談会を終了いたします。



## 今、輝く、女性リーダー紹介

### 特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International ファンドレイジング 村田亜希子

TABLE FOR TWOを直訳すると「二人のための食卓」。先進国の人たちと開発途上国の子どもたちが、食事を分かち合うというコンセプトである。

世界の約75億人のうち、約8億人が飢餓や栄養失調の問題で苦しむ一方で、20億人近くが肥満など食に起因する生活習慣病を抱えている。世界規模で起きているこの食の不均衡を解消し、開発途上国と先進国双方の人々の健康を同時に改善することを使命に活動をしている。

小学校教員の後、浜松の主要産業「ものづくり」の分野に関心を持ち、企業勤務の経験がある村田さんは、結婚・出産・育児の中で学童保育の団体を立ち上げ活動をした。誰もが自分の希望する選択の機会が得られるような世界にしたいと、「ビジネスの手法で社会問題を解決する」考え方に合った。

現在、子どもたちの飢餓や貧困、健康や教育について考え、アフリカ・アジアの子どもたちに給食を届けている。世界の食と健康の現状を現地で見たい、より多くの人たちと一緒に世界を考える場を作りたいと、村田さんは熱く夢を語る。



TABLE FOR TWO

### 特定非営利活動法人 Cafe de 寺子屋

理事長：大石紗矢香

活動目的を、「すべての価値観が尊重される中で、自分自身で判断し、言動を選択できる社会の実現」とし、地域のカフェを営業時間外に借りて寺子屋を開く、学びの支援活動である。寺子屋には近所の小学生から高校生まで参加し、運営は学生ボランティア、個人情報管理や緊急時対応のサポートは社会人スタッフが行っている。

カフェの温かく落ち着いた雰囲気の中で子どもたちが自学自習をし、寺子屋の先生である大学生が子どもたちを観察しながら声掛けをする。大学生と子どもと一緒に考え、学校では学ばないことも楽しみながら学習の幅を広げていく。

現在、静岡県に4つ、山梨県に2つ、東京都・福島県・島根県に1つずつ作り、浜松市では、中区三組町の「鴨江珈琲」で「寺子屋鴨江」を開催している。寺子屋は「地域でいちばん心地よく自学自習ができる場所」になることを目指し、机や椅子が無機質に並ぶ空間でないことを考えて、カフェを借りている。

「学ぶことは食べることと同じくらい人間にとって欠かせないものだと思います」と、大石さんは、子どもたちの教育に携わる理由をあげている。





## 特定非営利活動法人 プラチナライフサポート紡 理事長：柏倉珠美

子ども食堂を始めて4年、ひとり親家庭や経済的に困窮している家庭の子どもたちに無料で食事を提供している。新型コロナの影響で開催できない時は、お弁当の無料配布を続けている。

マンションの1階にあるカフェは、南面の間口が大きく開き明るく開放的で、子ども食堂には最適の雰囲気だ。作る人の思いが、食べる子どもたちにしっかり伝わる温かさや優しさがある場所である。

子どもたちが笑顔になってほしいとの願いを込めて、可愛いお弁当作りを心掛けたり、一緒に食事やスイーツを作ったり、ビンゴで生活用品をプレゼントしたり、大晦日にはミニおせち二段重を配ったりして喜ばれている。また、「子ども食堂スペシャル」として、餅つき大会や春祭りなど、多くの子どもたちが楽しめるようイベントも計画し開催している。

柏倉さんは、ひとり親での子育て経験や、30年前のリウマチ発症による手足や体の不自由があり、多くの人たちに支えられ助けてもらったことが、現在の活動につながった。経験を最大限生かし、メンバーや周りの人々の手助けを大切にしながら、「子どもの未来応援団」として、子どもたちの笑顔のために、未来のために全力で進みたいと意欲を語る。



## 富用品(ふようひん)市 ピタゴラス

代表：鈴木恵美子

「もったいない」の精神で不用品の交換市を開催して5年、ある人にとっては不要でも、もらう人には役に立つものが多くあると、市を開き大勢の利用者に喜ばれている。

中区富塚町にあるビルには、食器・小物・洋服・本・雑貨など、まるでリサイクルショップのように多くの品物が並び、値札はどれにもついていない。入場料100円で、必要なものを選んでなんでも持ち帰ることができる。使い捨て文化により自然が破壊され、人の心が病んでいくことを憂い、豊かさにマヒした感覚を断ち切り、使えるものに感謝をしていくことが大切であると活動を続けている。「断捨離」から「断謝離」へと、漢字を変え言葉の意味を変えるところに、主催者の真意がうかがわれる。

不用品を「富用品」としたことは、別の人にとっての“無駄”が他の人の役に立ち“富”になるということである。友達同士で物々交換が始まることもあり、各地に活動が広まり日常生活の一部になってほしいとの強い思いが、鈴木さんにある。

持ち込む人と持ち帰る人で、開催日は大勢の人が集まる。ボランティアの仲間「えみりとゆかいな仲間たち」10人ほどが、協力し合っ



令和3年度浜松市UD・男女共同参画提案事業  
『今、輝く、地域の女性達 ～女性リーダー育成のために～』

編 集 NPO法人みらいネット浜松  
理事長 河原みち代  
〒432-8061 浜松市西区入野町20012-11  
TEL・FAX 053-570-8696

発 行 令和4年2月 浜松市